

おおがたぐんじょうり やまのい
大泉郡条里遺跡・山ノ井遺跡 公開資料

大阪府立八尾翠翔高等学校の南側では、寝屋川流域総合治水対策の一環である恩智川（法善寺）多目的遊水地の整備が大阪府により進められています。この遊水地の範囲には大泉郡条里遺跡と山ノ井遺跡という2つの遺跡が広がっていることが知られていたため、公益財団法人大阪府文化財センターでは、平成23年度以降継続して工事に先立つ埋蔵文化財の発掘調査を実施してまいりました。今回の調査はその10次目にあたります（下図）。

発掘調査は、まず現代の盛土やその下の田んぼ・畑の耕作土を1mほど機械で掘削します。そこからさらに約1.5mをスコップやショレンを使って少しずつ人力で掘り下げ、古い時代の遺構・遺物を見つめます。このためとても時間がかかります。

今回の調査では、上層で耕作地の区画を示す畦畔（アゼ）や溝が見つかりました。そのうちもっとも古いものは、平安時代後半（11世紀）のものと考えられます。畦畔の近くからは鏡や銅銭が出土しています。

下層では古墳時代初頭の溝や周囲に円形の溝をめぐらせた墓、縄文時代の溝や穴などが見つかりました。縄文時代の遺物が多く出土しており、土偶や石棒など珍しい遺物も見つかっています。

平安時代後半（11世紀）の耕作地

アゼによって長四角に区画されています。アゼとアゼとの間は約11mあります。

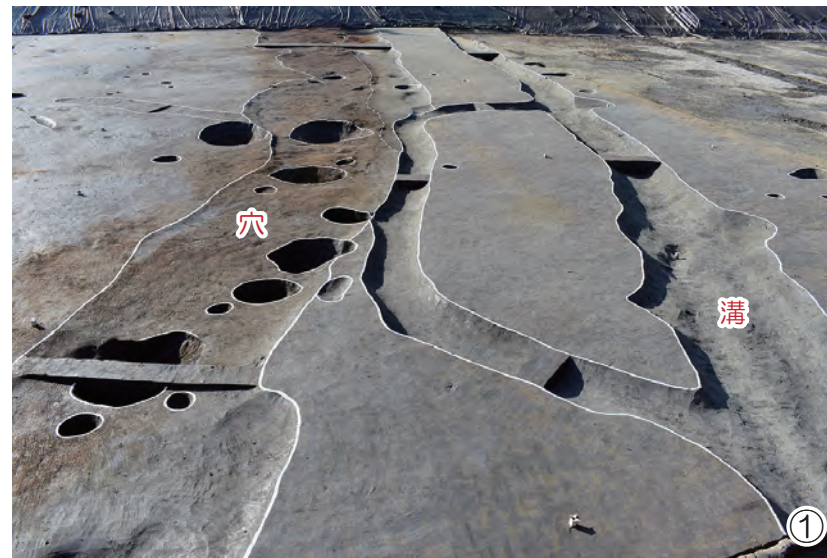


耕作地境のアゼ

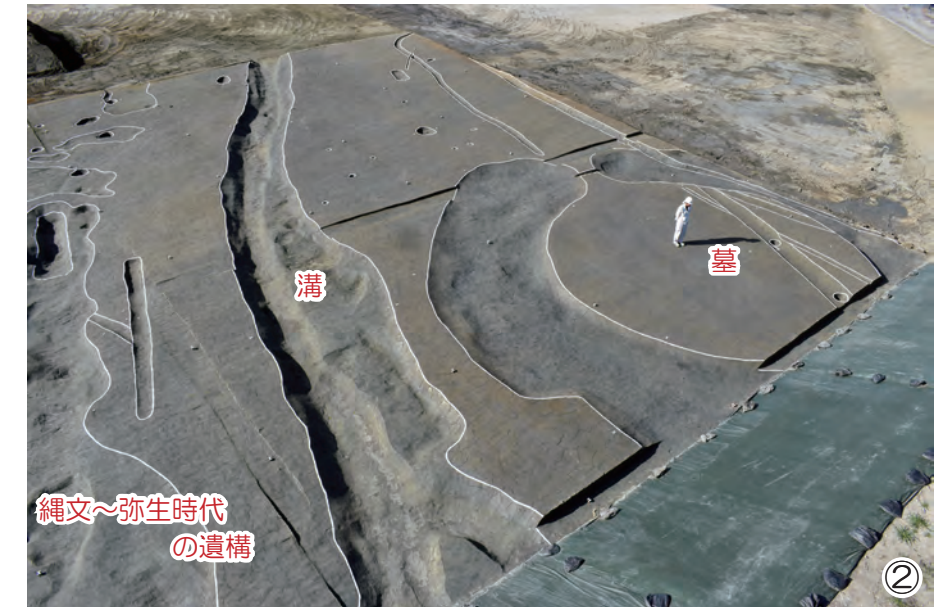
少しずつ掘り下げていくと、盛り上がったアゼの上面が、まわりの土とは違った色で見えてきます。

上層（10・11層下面）の遺構

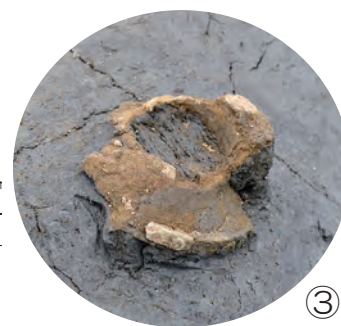
下層（13層下面）の遺構



縄文時代晩期の穴（左）と古墳時代初頭の溝（右）
左の穴のひとつから土偶が見つかりました。



古墳時代初頭の溝（左）とまわりに溝をめぐらせた円形の墓（右）
溝より左側（東側）には縄文～弥生時代の遺構が広がっています。



古墳時代の土器
墓の周りの溝の中から出土しました。



縄文時代の石棒
男性のシンボルを表現しています。子孫繁栄などの信仰に用いられたと考えられています。



縄文土器
つぶれた状態で割れています。



縄文時代の穴
底から土器が見つかりました。

顔は欠けてありません

よく見ると
乳房の表現もある
(はがれ落ちているが...)

足の表現は省略されている

土偶（縄文時代）
女性のこんな姿を表現しています

おの
石斧〔上〕 と 石庖丁〔下〕（弥生時代）

中央に亀、そのまわりには松の枝をくわえた鶴が描かれている

まわりの縁がなくなっています

鏡（平安時代末～鎌倉時代）

縄文土器（縄文時代）

「かりまた」と呼ばれる鳥や獣を射るためのやじり

根元に音を発する「かぶら」を付け、合戦開始の合図に用いる
「かぶら矢」として使ったのかもしれない

鉄のやじり〔上〕（鎌倉時代～室町時代）と
銅のやじり〔下〕（弥生時代？ 古墳時代？）

石のやじり（縄文時代～弥生時代）

銭の名前	つくられ始めた年
1. 富本銭	683年頃
2. 和同開珎	708年
3. 万年通寶	760年
4. 神功開寶	765年
5. 隆平永寶	796年
6. 富壽神寶	818年
7. 承和昌寶	835年
8. 長年大寶	848年
...	

銅銭

わとうかいちん
和同開珎 と りゅうへいらいほう
隆平永寶

そとば
卒塔婆（鎌倉時代～室町時代）